

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277102402		
法人名	有限会社あおば		
事業所名	うえるケアホームあおば		
所在地	浜松市北区三方原町70-10		
自己評価作成日	平成 28年 1月 20日	評価結果市町村受理日	平成 28年 3月 29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	平成 28年 2月 9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームを開設して11年が過ぎました。介護の質のこだわり職員への教育に力を入れています。しかしながら、11年の間には職員の入れ替わりもあるため、一定の質を保ち続ける難しさも痛感しています。今年度の外部評価を終えて、ホーム開設の原点である、「ご利用者様のお一人お一人の生き方を理解し、尊重し、支援する」ケアの実現をしていきたいと考えています。お一人お一人の生き方を尊重することの一つが、終末期や最後をどのように生きたいかということではないかと看取りケアにも力を入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム近くにはスーパーや大型の薬局等あり生活に便利な場所に立地し、ホームまでのアクセスも便利です。ホームのリビングの南側には大きな窓があり、暖かな日差しが差し込み開放的かつろげる空間になっています。茶色の犬がリビング一角におり、利用者様の癒しの存在となっています。また、職員会議は全職員出席できる時間帯に行うなど工夫し、利用者様が充実した生活が過ごせるよう常に利用者目線で検討しています。また、他の事業所と積極的な情報交換を行い、職員の心の風通しも良くしています。地域のボランティアの協力も得ながら季節ごとの催しを行って、常に利用者様が笑顔で過ごせるよう努めておられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価の結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修等で理念に触れる機会を設けている。定期的に事例を挙げて振り返る場を設ける努力をした。しかし、管理者としてできないことが多かった。日常的には信念にぶれずに指導をした。	施設運営理念としてノーマライゼーションの考え方に基いて、利用者様の意志の尊重の上で自立した生活と自己実現を目指されています。特に「自分がされて嫌なことはしない」ことを常に伝えあっています。	めまぐるしい社会の変動は急激なものです。今後の地域や利用者のニーズを理解しながら、理念を再考する機会を持たれ、地域密着型サービスの提供になるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域と繋がることが課題であった当初からその土台ができた昨年、そこからもう一歩踏み出さなければいけない年だったと思うが、昨年そのまま、進めることができなかった。	自治会に加入し餅つき、運動会などの季節ごとの行事に参加したり、ボランティアの方々が納涼祭のため盆踊りの指導に訪問されたり多目的広場を利用して認知症カフェを開くなど地域とのコミュニケーションを大切にされています。グループ便りも回覧し、ホームの様子を伝えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの取り組みは継続しているが、発展的ではない。グループ活動としての取り組みと管理者の思いがかみ合わない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他の事業所の運営の仕方を学ぶ機会を得て開催しているが、内容については、私自身が満足していない。貴重なお時間をさいてご出席いただくので、27年度は会の年間目標を考えて臨みたい。	定期的な運営会議が実施されていました。災害時の対応等の話し合いなど常に課題を提供されています。時には民生委員の方に話をしていただき、深く感銘を受けることもあるそうです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北区情報交換会・市役所介護保険課・地域包括支援センターと積極的に相談・交流をしている。昨年は居宅介護支援事業所を開設し、関係先では色々ご指導頂いた。	常に前向きに、市、包括支援センター、区情報交換会に積極的な参加されています。事業所としての相談に対して指導を積極的に受けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことへのアンテナは高く、職員の教育の機会も積極的に設けている。	月数回のカンファレンスで職員間でケアの内容について意見交換がなされています。栄養剤の必要性、異食についてなど事業所の取り込みや方針を示し、家族に納得していただくため説明をして誓約書が取り交わされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための研修には積極的に出席できるようにしている。職場内では、不適切ケアのカンファレンスや事例検討の場を持つよう努めている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は対象の利用者様が居られず、勉強会の開催はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をとって十分な説明を質問を確認しながらしている。解約時にも不安・疑問等伺い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が定例で開催できていなかったが、昨年12月に開催した。こちら、会の意義を検討しながら実のある会へ発展させていきたい。	ご家族が多忙になり家族会の参加も少ない中、ホームを訪問される時や行事に参加される機会等で要望をいただくよう積極的な取り組みが見られます。	ご家族と職員の信頼関係が作られています。今後さらに家族とともに運営等に関する意見交換等が活発になることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を聞く場を設けている。職員の個別面談も必要時行っている。	職員がレクリエーション、地域との関わり、防災等の担当をし、職員会議で課題を出して意見交換を行っておられます。管理者との個別面談が年1回あり、管理者は職員とのコミュニケーションを大事にされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の努力に努める一方、国として介護報酬の引き下げなど、矛盾も多く、運営者側だけに求めるのは…。しかし、26年～27年にかけて産休・育児休暇を3人が取得し、28年4月までに3人が復職を果たす。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修のほか、外部研修へも積極的に参加できるように努力している。介護福祉士の資格取得が難しくなったため、次年度に向けては法人内で何が出来るか具体的にしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長レベルの交流会は実りあり、研修会の依頼があり、相互交流の場は拡大してきた。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人努力をしている。しかし、先輩層の退職や育児休暇等で質を確保していくことの難しさを痛感した。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員個々においては未熟さがある。家族等の相談に応じたり担当者会議を開催し、要望をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にアセスメントをしプランを作成している。入居するしないに関わらず相談を受けた方へ様々なサービスについて情報提供したり相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力している職員は多い。しかし、尊厳との関係で理解してケアをしているというには不十分である。→研修強化・目標化		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えていく関係を作る努力をしているが、協力をいただくにはご家族の状況に差がある。入居時に説明し、協力を求めたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーションの概念を見直した上で余暇活動の支援を考え実践を始めている。自宅に行ってみたい利用者がいれば出かける計画を立て、様子を見に行ったり家族の協力を得て外泊をしている。また家族が入院している方には付き添って面会に行っている。	職員皆様が利用者様の人間関係について詳細に把握されており、そのうえで「家に帰りたい」と言う利用者の家族との関係や、生きてきた背景を職員で考え丁寧な検討が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性などを考慮して職員が関わるようにしている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際に支援したケースはないが、必要があれば経過のフォローや相談に応じていきたい。また、居宅介護を立ち上げたことにより、こちらは支援しやすくなったと思う。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録との関係で情報の共有化やケアプランへの反映は、まだまだ課題である。	センター方式のアセスメントシート等を利用して、利用者様の思いや希望を把握できるよう取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールを用いて本人や家族から情報を得ている。また、しかし、経験や学歴等のばらつきがあり、本当の意味でこれらの実践は難しいことであると感じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	力量不足を痛感する。経験者と指導者の育成が急務。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスはしっかり行い、ケア者の意見もよく反映している。モニタリングとプランの評価・修正が向上するように取り組んでいきたい。	事業所独自の様式を使用して、職員間で情報を出し合い、利用者家族の意向を汲み取って、チームで作る介護計画やモニタリングを展開されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護記録をつけ、申し送りを行い情報を共有しているが、記録そのものの重要性等について勉強されていないため実施したい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者として進もうとしている方向は正しいと確信している。しかし、ケアの実践ではリーダー格が真に実力をつけられない限り、到底無理であり、人材育成に急務。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携を考えるグループを中心に支援していくよう努めているが地域資源を活用できるほどに協働ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院と連携を図りながら適切な医療が受けられるようにしている。	ご本人やご家族の希望で、地域のかかりつけ医に受診されています。また救急時には病院を指定して、家族から承諾書を交わしています。事業所のかかりつけ医とは、土曜日の往診、インフルエンザの予防接種の対応も速やかで良好な関係を作っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル・皮膚状態・便秘等観察し、変化があれば必ず看護師に報告をしている。それにより看護師が状態を確認し必要に応じて受診の計画を立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護要約を作成し、総合病院へ受診時持参している。入院した時は看護師が近日中に訪問し、状態・治療方針・入院期間を確認している。退院時にも訪問をしてグループホームでの生活が可能かや生活上の注意点を医師から説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族の意思を重度化対応指針を用いて確認している。その上で実際に状態が変化した時点で再度意思確認をしている。	早い段階からご本人、ご家族の意志を確認されています。重度化や終末期に備えてホーム内では、かかりつけ医の協力のもと、看取りまでの支援体制が整備されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	介護職として出来ることに限りはあるが、悔いが残らないようにするため技術講習を実施している。講習回数を増やしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	東海沖地震に備えて地域との連携を見直していきたい。これまでも運営推進会議等で議題に挙げたが、不十分である。	防災訓練を昼、夜共に実施されています。地域の人たちの避難所としてホームを提供し開かれた関係にしたいと検討されています。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員個々で気をつけている様子。しかし無意識であるときは配慮に欠けるところがあるため職員間で注意しあっていきたい。	名前を呼ぶときも慣れ合いにならないで相手を尊重し、トイレなどの援助が必要な時も相手のペースで行うような配慮がなされています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類や飲み物の選択もできたりできなかったりしている。本当にしなければいけないことは人生における決定であるから、医療や介護に対する希望をきけるような関わりを本気でしなければと考えている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の側に余裕がないと、ケア者の業務優先といった態度になってしまう。職員によって差がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには配慮しているが、おしゃれに関しては十分個性を理解したものではないと感じている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを出来る部分で参加している。今後はさらに利用者が参加できる部分が増えるような支援をしたい。	対面式のキッチンでIHコンロを使用して食事の準備や片付けなど利用者様にできることを楽しみながら行えるように配慮がありました。お弁当を食べる日やお好み焼きを作りながら食べるなど楽しめる食事の工夫が見られます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェック表に記入し、必要に応じて補食をしている。利用者の状態に合わせた食事形態にしたり、食事時間になるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	これまで毎食後の口腔ケアを習慣とされてこなかった方に対して毎食後の口腔ケアを促すことは容易ではない。グループ活動で取り組み、職員の意識は上がった。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排尿間隔を把握し、ここに合わせてトイレ誘導をしている。利用者様の状況が変わる都度カンファレンスをし適切なケアが出来るようにしている。	排泄チェック表を使用して排泄パターンを見ながら声かけされています。特に食事前は上手声掛け等で誘導されています。トイレ排泄の支援を実施し、おむつを使用しない支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を確認し、食事・水分等と合わせて管理している。腸内フローラ的にみると発酵食品の摂取機会を増やしたいが、ぬか漬は挫折に終わり、納豆を取り入れるように検討した。ぬか漬は次年度再度挑戦したい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施している。2日に一度は入れるように配慮しつつ、利用者の希望も確認している。安全のため職員が一人の時間を除いては希望の時間に入浴できるようにしている。	ご本人の希望する時間に入浴できるよう朝8時～夜7時まで対応されています。浴室には暖房がありヒートショックの予防などの配慮が見られます。お湯を張るときは施錠をして安全な入浴支援を心掛け実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や活動に応じて昼寝の時間を作っている。夜間眠れない方には飲み物の提供の他、話をおききし、不安の解消にあたるなどを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については看護師より説明をする機会が多いが、カードックスを道具として使う意味がわかっていないために、知識が不安定。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートの活用や家族からの情報を下に支援はしている。しかし、活用が不十分であると感じている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力を得て、外出・外泊をしたり、利用者の要望でカラオケやドライブへ出かけている。さらに外出支援をしていくために職員個々の技術力を向上させたい。	外出はご本人の体調、気候に左右されやすいですが、生活歴から本人の行きたい所(お墓参りや図書館等)を把握して家族と相談しながら外出の支援が行われています。また、車椅子にも対応できるよう福祉車両が用意されています。	



50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方は自分の財布を持って買い物に出かけている。所持しているお金を居室で隠してしまう方には、毎日ご本人と一緒にお金を探して、所持金の紛失がないか確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の要望を踏まえ、電話の希望に応じている。最近は携帯電話をお持ちの方が増えており、入居してからの使い方については検討が必要と考える。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の掃除は徹底しており、感染症対策もできている。しかし、音に対してや、テーブルの配置などは利用者の個々の状態に併せて環境の調整をできるように職員の質をあげる必要がある。	リビングは南側に大きな窓があり、暖かい日差しが入る開放的な雰囲気です。一画には犬を飼っており利用者様に癒しを与える存在となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態・状況に合わせて柔軟に対応しているが、センスも必要。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望のもの(仏壇等)は持ち込んで頂いているが、職員による居室の片付けやレイアウトのもっと努力が必要である。	洋室と和室それぞれの部屋に写真や自分の趣味の品が置かれ、愛着ある調度品が備えてありました。ご本人の居心地のよい空間になっています。また、ベランダを利用して好きな花や野菜を植えて楽しんでる入居者もいらっしゃいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「わかること」を活かせる環境作りという職員側の配慮や知識が不足している。		